

公益社団法人私立大学情報教育協会  
平成23年度第1回情報教育研究委員会 議事記録

- I. 日 時：平成23年12月13日(火)午前10時～12時  
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室  
III. 参加者：村井委員長、齋藤副委員長、武藤委員、阿部委員、大谷委員、渡辺美智子委員、渡辺淳委員(Net)  
企業アドバイザー：日立製作所  
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 委員の紹介

2. 情報教育研究委員会の活動方針について

- ・ 情報教育研究委員会は、仮称で親委員会として、3分科会の活動をたばね、各分科会の企画立案、成果の点検、課題事項を実施するか等判断するなどの役割を担う。親委員会独自の活動としてフォーラムの開催があり、フォーラムは配信することで個々の大学で受けてとめてもらうことにしたい。委員構成では社会情報・情報科学系の先生をメンバーに加えていきたい。
- ・ 情報リテラシー・情報倫理分科会は、学部・分野共通の情報活用能力のガイドラインの方向性を提示する。情報専門教育分科会は、情報通信系とクリエイタ系の学士力をまとめている。分野別情報教育分科会は、各分野での情報活用能力・ガイドラインの利用の現状把握と教育事例を集めることにしている。

3. ネット社会を理解するためのフォーラム実施の企画について

- ・ ネットを手段とした事件・事故やソーシャルネットワーク・情報公開など、課題やお役立ちの現状がある。多様な意見を複眼的にとらえ、倫理や人権など高度情報化社会で生活し、解のない問題に向き合わせることが大学の課題と考える。そこで、有識者にテーマを設定して議論してもらいネットに配信して大学にとどけてはどうか、情報が発信から瞬時に地球・国民・世界に流れるのでありかたを考えたい。(YouTubeに出して世界からのフィードバックがあっても良いのではないか)
- ・ フォーラムの出席者は、コーディネータ・発言者で7名程度を考える。
- ・ 企画の進め方として、24年度に向けて議論して出席者を入れて文脈を作成していきたい。

4. フォーラムの共通理解として、委員の意見

- ・ テーマは「ネットによる情報の発信(拡散・流出)を考える」を取り上げてはどうかで、人間として社会問題、情報基盤のインターネットは大きな問題と考えられる。
- ・ 出席者のバランスについては、多角的な専門家、グローバルな状況の視点を希望で外国から見た視点など、世界の空間で日本がどこにあるかを考えてはどうか。
- ・ 国民的な意見の取り込み、世界で情報を考えるとサイバーウォーが話題にのぼる、インターネットエコノミーを進めるためには、Netを制限してはいけないのではないか。どのタイミングでテーマに組み込むか、新聞にも情報戦争としての記述はないが、議論が外交の場でされていることを知る必要がある。出席者のバランスについては、多角的な専門家、グローバルな状況の視点を希望で外国から見た視点など、世界の空間で日本がどこにあるかを考えてはどうか。
- ・ 戦争という言葉は大学でタブー感がないか。APECでも透明性の希望にナショナルセキュリティの問題が出ており、タブーで隠しておくことはできないのではないか、戦争ではなくナショナルセキュリティとして取り上げてはどうか。個人情報やサイバーテロなどのリスクを正確に把握する必要があると考える。
- ・ テーマはタイミングを見ながら決める必要がある。
- ・ ナショナリズムがはいつてくると違ってくる、震災の時日本人の良さ、親切心などがでた。外国人で財布の落とし物が出てきた例もあった。教育の良さなのか、いいところを守る方法としては良い人ばかりでは、一方向の情報だけを信用することになる危険性があるのではないか。
- ・ 回数は年2回など、大きなテーマを何にしたら良いか、一つの問題から枝葉に分かれる可能性も考えられる。何回かのストーリーをつくる必要がある。
- ・ 情報を全員に発信することは、悪意に使われたり、個人的利益に使われたりする。イントロで事象の整理から入ってはどうか。事象の整理から課題の認識をしてはどうかの意見があった。
- ・ インターネットユーザは20億人を突破している、世界の人口70億人で2020年には50億人イン

ターネットになりイメージが違う社会になると思われ、重要なテーマではないかとの意見があった。どのように情報教育が必要か普通の人を使う・全ての人を使うインターネット。普通の人がだれでも参加できる情報社会になってくる。

- 大学として、どういう責任を持つか、社会をつくっていく人材を育てる使命があるとの意見があった。未来を創造する責任がある。
- フォーラム名称として「人口70億人時代のネット社会を創造するためのフォーラム」にしてはどうか。

#### 5. 「情報」の大学入試について、情報交流

- 高校の情報教育が課題と考えられ、必須だがミニマム要求であり「情報と社会」の選択がほとんどで「情報と科学」が不足すると考えられ、今より情報技術を高校生が学ぶ希望がないことが指摘され、大学入試に「情報」をいれる必要が提示された。
- 世界では高校以下の教育できちんとやっている。現状、高校では教える先生がいない、入試になればやらなくても良い？など課題あるが、大学としては入試に入れることが対策ではないかの意見があった。
- 入試のガイドラインモデルを委員会として検討してはどうかの意見があった。戦略をつくって戦術としてどうするのか検討の必要があり、素案を作り、継続検討することにした。(入学した時点で分かっていると1年でやってしまうケースもあり、選択するためのメッセージを2012年のうちに高校や受験業界に出す必要がある。13,14,15年に各地で模擬試験を実施して3年間で正規化できないかの意見があった。
- ICT活用の調査では、小中学生では「デジタル学力テスト」や成人版では「国際成人力調査(ピアック)」など参考例があげられた。

#### 6. 次回の予定

- 「人口70億人時代のネット社会を創造するためのフォーラム」として2年間で4テーマの実施を検討するため、広く話題に入れるようなテーマの文脈案を持ち寄り議論することにした。
- 次回委員会予定 メールで日程を調整することにした。